

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	令和5年度 姫路市地域福祉計画推進懇話会
2 開催日時	令和5年9月27日（水曜日） 10時30分～11時55分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館5階 第1会議室
4 出席者又は欠席者名	出席者13名、事務局
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人 なし
6 議題又は案件及び結論等	<ul style="list-style-type: none"> 1 姫路市地域福祉計画の概要について 2 姫路市地域福祉計画の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> (1) 重層的支援体制整備事業の実施状況について (2) 「姫路市子ども食堂運営支援事業補助金」について (3) 姫路市における認知症カフェの取組について
7 会議の全部内容又は進行記録	議事要点については別紙参照

事務局	開会（10：30）
事務局	挨拶
事務局	<p>委員及び事務局の確認 配布資料の確認 当日新規配布資料 「会議次第」 「名簿」 「配席図」 「開催要領」</p>
D委員	<p>令和3年3月に計画が策定され、今年は3回目の懇話会となる。 懇話会では、毎年多くの意見が出ており、取組に反映するなど、意見を参考にされている。本日も活発な議論をよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>次第2 計画の概要について 資料説明 ・資料 姫路市地域福祉計画【概要版】</p>
事務局	<p>次第3 計画の進捗状況について 地域福祉計画に基づいて行政が実施する各方策について報告したい。資料1の「地域福祉計画（令和3年3月策定） 重点方策（取組状況）」に重点方策についての取組の概要、令和4年度の実績、令和5年度の計画、今後の方針及び改善点等をまとめている。本日は時間の都合上、計画に掲載している取組及び地域福祉に関する取組の中から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援体制整備事業の実施概要について ・こども食堂への支援について ・認知症カフェの取組について <p>の3つの取組に絞って所管課から説明したい。</p>
事務局	<p>資料説明 資料2 重層的支援体制整備事業の取組状況について ・重層的支援体制整備プログラムの概要</p>

D委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度の実施状況 <p>資料3 「姫路市こども食堂運営支援事業補助金」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目的 ・ 事業概要 ・ 予算・決算状況 ・ 今後の課題 <p>資料4 認知症カフェの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症施策について ・ 認知症サロンについて ・ 認知症カフェについて <p>いずれも地域にとって大事な取組について説明があった。 今後も充実しなければならないものであると考える。 様々な分野で活躍されている方が参加されているので、説明のあった取組について、あるいは、地域福祉計画全体について、また、それぞれが抱えている問題についてでも良いので、ご意見、ご質問をいただければと思う。</p>
B委員	<p><地域福祉計画冊子について></p> <p>地域福祉計画の冊子では、姫路市の現状が8ページから22ページに記載されているが、計画策定から2年半が経過しているため、この会議の機会などに各分野の数値がどのように推移しているのか知ることができれば良いと思う。</p> <p><デジタル化の進展に対する取組について></p> <p>計画策定から2年半の間に社会情勢は変化し、新たな法律も整備されている。 高齢者が直面している問題として、デジタル化の問題がある。デジタル化が大きく進んでいるが、高齢者はなかなかついていけておらず、置いてけぼりになっているような印象がある。 デジタル化の進展に対する取組について、地域福祉計画に方向性を追記する必要があるのではないかとと思うが、ご意見をお伺いしたい。</p>
事務局	<p>デジタルの活用によって効率的かつサービスの向上が図れる分野もあると考えている。</p> <p>計画策定時にはデジタル化の声は大きくはなかったが、コロナ禍によりリモートの活用が進むなど、デジタル化が一気に進んだ印象がある。</p> <p>姫路市においても、7月の組織改正でデジタル戦略本部が設置された。姫路市においてもデジタル元年。市を挙げてデジタル化に取り組もうとしている。高齢者の方のスマートフォン利用についても、庁内で政策化に向けて取り組んでいるところである。</p>

B委員	<p>計画期間は、令和8年度までであるが、社会経済情勢の変化や大きな制度の改正があった場合は、これを踏まえて適宜対応するとしているため、計画への反映も考えていきたい。</p> <p>資料2の中で、社会的な孤立状態にある方やひきこもりの方の支援について触れられているが、2023年度版の厚生労働白書では、全世帯における単身世帯の占める割合が1990年には23.1%であったが、2020年には38%となっており、単身世帯が大きく増えていることが分かる。</p> <p>また、姫路市の在宅高齢者実態調査では、市内に居住する65歳以上の独居高齢者は、令和2年度は22,628人で令和4年度は24,140人であり、2年間で1,512人増えている。</p> <p>単身世帯が増えていることが孤独・孤立問題につながっていることが心配されるが、特に単身高齢者への取組についてご意見をお伺いしたい。</p>
事務局	<p>単身高齢者の増加は、それ自体が悪いことではなく、高齢者が友人や地域の方と交流したり、地域活動などにご参加いただければありがたいことである。しかし、地域の誰とも交流がない方や必要最低限の買い物のみなど、外出の機会が少ない方について心配があるのご意見かと思う。</p> <p>コロナ禍以降、活動を休止している団体もあるが、認知症サロン、いきいき百歳体操など、地域の方へ参加してもらえる機会が増えればと考えている。こうした場に参加していただくことで、地域でお互いを気にかけて関係性を築いていただくことが大切だと考えている。</p> <p>現在、令和6年度から令和8年度の高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定中である。医療、介護が共に必要な方が増えているため、社協、ケアマネジャーなどにも協力・連携してもらいながら、住み慣れた姫路（まち）で健康に暮らしていただけるよう検討を進めているところである。</p>
B委員	<p>資料4で認知症にやさしい地域づくりについて説明をいただいた。認知症カフェと認知症サロンの違いを整理されたのは良かったと思う。地域ではオレンジカフェという名前で認知症サロンが開催されてきたが、実質的にはカフェとサロンが一緒になっていたものかと思う。</p> <p>認知症サロンの位置付けとして、資料には認知症の方と家族が地域住民とともに過ごせる継続的な通いの場とあるが、認知症かどうか見分けるのは難しく、認知症の方とのふれあいとなった場合、課題にもあがっているが、常駐の専門職が確保できていない状況では、なかなか対応が難しいこともあると思う。</p> <p>認知症サロンと認知症カフェと位置づけたことで、既存の認知症サロンの位置づけに特に変わりはあったのか。また、認知症カフェについては、十分なPRができていないのではないか、という印象があるが、ご意見をお伺いしたい。</p>

事務局	<p>認知症サロンの位置づけに変更はない。</p> <p>認知症サロンでは、定期的にフレイルチェックを行い、認知機能の項目で気になる方には受診を促したり、認知症カフェを案内するなどしている。認知症サロンの目的は、高齢者が地域で孤立しないことである。地域の交流の場として認知症の有無にかかわらず参加していただき、気になる方には声をかけたりなど、認知症の早期発見ができればと考えている。今後も引き続きこの目的に沿って取り組んでいきたい。</p> <p>認知症カフェのPRについて、十分でない部分もあるが、リビング姫路や広報ひめじで紹介し、掲載後には問い合わせが増えた等の効果があった。今後も様々な機会を利用してPRを続けていきたい。</p>
B委員	<p>認知症サロンでは、なかなか世代間交流ができていない。これも今後の課題と思う。今度どのように進めていけば多世代交流ができるのか、ご意見をお伺いしたい。</p>
事務局	<p>市民局の所管であるが、各公民館に今年度W i - F iを導入しようと進めている。高齢者や子ども達のデジタルを介した世代間交流の場になれば、との市長の思いがあるため、今後の方策を見守っていただきたい。</p>
C委員	<p><情報の共有について></p> <p>高齢化の問題が取り上げられている中、これは私の地区に限っての話になると思うが、令和2年に地縁団体化するとき、住民アンケートを行ったところ、平均年齢が非常に若く、38歳だった。</p> <p>昨年、再度その後のケアとして自治会員の情報を得るため、住民アンケートを実施した。地縁団体化時はアンケートの回答率が100%であったが、昨年は回答率が80%に下がった。市民局の部署に対し、なぜ情報を自治会に渡さないといけなのか、とクレームを言った方もいた。情報の共有が大切だと言われるが、どうすればよいのか難しいと感じる。コロナ禍の影響もあるのか、地域の連携が希薄化し、地縁団体を守っていくこと自体も難しいという課題がある。</p> <p><公民館へのW i - F i導入について></p> <p>公民館へのW i - F i導入は市長からも聞いているが、活用するといっても、場所の確保が難しい。図書室は毎日小学生が5、6人は利用している。W i - F iが入ると端末を小学生が持って来られるのでよい面もあるかと思うが、利用人数が増えると、館長も常時見守っておくことは難しく、管理の問題が生じると思う。</p> <p><こども食堂について></p> <p>こども食堂は社協メインでやってもらっているが、補助金のことは今回はじめて知った。補助の要件を確認すると、月1回以上の実施など、ハードルが高いように感じる。NPO法人等であればこの要件でも可能かもしれないが、地域のボランティアだけでやっていくには難しい面がある。</p>

事務局	<p><情報の共有について></p> <p>コロナの影響もあるのか、個人情報の意識が非常に高まっている。マイナンバーの件など、行政への不信感が類似する自治会の取組にも波及しているかもしれない。市として、個人情報については、間違いのないようしっかりと管理していく。行政に対する信頼感を高めていくしかないと考えている。それが自治会へ情報を出しても良いという雰囲気につながればよいと思う。</p> <p>姫路市は自治会加入率が高く、自治会の協力なくして行政は成り立たない。しかし、子ども会がなくなったり、自治会に加入しない方も増えてきたと聞く。地域福祉計画で目指す、「自助・公助・共助」、特に共助の面が厳しい状況になってきている。自治会の協力を前提として考えてきた共助の部分について、見直しが必要であると感じている。</p> <p><公民館へのWi-Fi導入について></p> <p>子どもの利用率が低いところが多くある中、子どもたちが多く利用している公民館は、素晴らしいと思う。すでに子どもたちが集まり、場所が足りない公民館もあるという情報は市民局と共有しておく。</p>
事務局	<p><こども食堂について></p> <p>市で把握しているこども食堂は23団体。補助金に関しては、国の補助を活用して昨年度から実施しており、昨年度は4団体に補助し、今年度は6団体から申請がある。</p> <p>ハードルが高いとのご意見であるが、国の基準になるので、月1回以上の開催や、支援が必要と思われる子どもや保護者がいれば行政機関へつないでいただくといった要件がある。国の基準に該当しないものを市の単独予算で負担するとなると、財政的に厳しい状況もある。国の補助の活用は始まったばかりであり、まずは国の基準に則って取り組んでいる状況のため、ご理解いただきたい。</p> <p>地域の方々にこども食堂に取り組んでいただけるのは大変ありがたいことである。お困りごとがあればご相談をいただきたい。</p>
A委員	<p>不登校・ひきこもり支援について、姫路市の小中学校でも不登校の児童生徒が増えている状況があり、姫路市連合PTA協議会でも、不登校を一緒に考える会を開催し、100名弱の親子が参加した。</p> <p>連合PTA協議会では、不登校の子どもが集まって勉強ができる場所、居場所がほしいという話がよく出る</p> <p>他都市ではこういった教室が各学校にあると聞いた。不登校・ひきこもり支援について、できれば、教育委員会と一緒になってもう少し力を入れてもらえればありがたい。</p>
事務局	<p>教育委員会の所管になるので分かる範囲でお答えする。</p> <p>年間30日欠席で不登校とされるが、不登校児童生徒への支援の在り方は昔と変</p>

D委員	<p>わってきている。学校側も無理に登校を促すのではなく、タブレット端末の利用や、フリースクールなども、一定の条件を満たす場合は、出席とみなす状況がある。</p> <p>勉強できる場ができて、来てもらえる子は良いが、昼夜逆転等で来られない子の問題もある。兵庫県には現状ないが、不登校特例校を都道府県レベルで作っているところもある。教育委員会は、特例校についても視野に入れて考えていると思う。</p> <p>地域では2か所、安富公民館、広畑市民センターを利用して適応教室、学校に行きにくい子どもの居場所を設けている。教室の拡大や積極的な活用についてもご意見が出ていると聞いている。教育委員会では今年度から不登校関連の連絡協議会が設置されているので、今後の進展を見守っていただきたい。</p> <p>不登校については、福祉的な観点も必要かと思う出ので、教育委員会とも連携して取り組んでいきたい。</p> <p>本日は大変重要な課題について議論ができたと思う。</p> <p>地域福祉計画の推進も徐々に進んでいる。本日は様々な重要なご意見が出たので、さらに計画を進展・充実していくべく、参考に進めていただきたい。</p> <p>閉会（11：55）</p>
-----	---